

ちょうど1年前の話で、分転換を兼ねて、昔の御を出た。コースは北御堂がある。日本国中ゆだるよ、堂筋をぶらうこうとういう、さんで盆踊り、夕食はううな暑さの中、避暑と気、ことになり、家内と自宅、なき屋でと、これまでに



盆おどりの思い

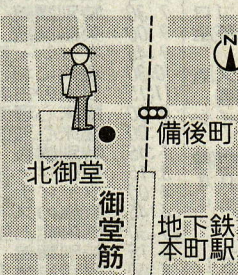
ない取り合わせとなつた。盆踊りに菊水丸さんが出演し、新聞詠み「蓮如ものがたり」を語るといふ。それを聞くのも一つの目的であった。「御堂筋ものがたり」の取材を深めていくうちに、大阪人と真宗とは強いつながりがあることに気付いたからである。中でも蓮如は真宗の中興の祖といわれるだけあって、彼の教義活動は今にも通じるものがある。特に注目したいのは、親鸞の教えを門徒に分かりやすく理解してもらうために、信仰に対する心構えをつづった文章「御文」を著し、同朋同行の交わりを徹底的に行つたことである。法事で初めて経験したのであるが、教えを唱和する口語や、南無阿弥陀仏の繰り返しが、

知らず知らずのうちに身に入り、救われたような気持ちになるから不思議である。盆踊りも、蓮如ものがたり音頭に合わせ一緒に踊るのは、人との輪で共有感が生まれる。仲間

踊っている「世界」まさに浄土

となり、これまた救われた感じになる。北御堂さんの境内の広場中央には、檣と舞台が組まれ、これに縦横に下げられたちようちんの下で、信者、町内の人、背広姿のサラリーマン、一般来場者がはなないが、どんな宗教であれ、信仰を持っている人がある。人間てそんなに強いつたこととは何度もある。私も信じて、寄りかかれ、きっかけを見つけた。こうした心の持ち方が家庭、地域、日本、世界の宗落語なども機会があったら、そいてみよつと思、ではないだろうか。

一緒に踊って踊っている。世界は、まさに浄土である。現在、心の豊かさが求められているが、その受けている。そばの立像の蓮如もにっこり笑っている。人が交わりを求めて集める神社、寺院、教会など、急にスケッチブックにペンを走らせた。その時の絵がこれである。真宗に寄ってくる人々は、昔も今も良い顔をしている人が多しんだなとつぶやきながら、薄明かりのもとに、信者の仕事を描き取っていった。私は信者で、市民、住民の謙虚な心構



盆踊り お盆は正式には盂蘭盆といひ、旧暦の7月13日から16日にかけて、精霊を迎え慰めるために音頭や民謡に合わせて踊る。原始舞踊に発し、仏教渡来後は盆の儀式として行われたが、室町時代から民衆娯楽として発達した。